

# 第114回ASCセミナー

日本アフリカ学会 関東支部 共催



事前登録こちら

## 『保護区に隣接して暮らす先住民族 および地域住民の福祉と保全上の懸念： カメルーン東部の事例から』

2026年 6月10日(水)

場所：【Hybrid】

Online: ZoomMeeting / Onsite: 103 教室  
(東京外国語大学 研究講義棟 1F/ 府中キャンパス)

言語：英語・参加費：無料

時間：17時40分～19時10分(日本時間)



【講演者】マルレーン・ンガンソップ博士

(招へい客員准教授 現代アフリカ地域研究センター・東京外国語大学、ドゥアラ大学)

### 【要旨】

自然保護区とその周辺に暮らす先住民族と地域住民 (IPLC) は、そのウェルビーイングのために非木材林産物 (NTFPs) に依存している。しかし、保護区内でのこれらの資源へのアクセスが制限されると、周辺地域の採集圧力を増加させることにつながり、保全上の懸念が生じることが多い。ジャー生物圏保護区における私の研究は、保全の文脈において、先住民族および地域社会が健康と食料安全保障のニーズを満たすために、どのように自然資源に依存しているかを理解することを目的としている。本発表では、先住民族と地域住民の生活状況、非木材林産物がかねらのウェルビーイングに果たす役割、および保全が周辺地域の資源利用可能性に与える影響を検証することで、これらの点を明らかにする。本発表の最終的な目的は、保護区内のコミュニティの生活条件を改善するための分析的枠組みを提供することである。

### キーワード：

非木材林産物、ウェルビーイング、  
先住民族と地域住民、持続可能な資源利用、  
保全上の懸念、ジャー生物圏保護区



現代アフリカ地域研究センター  
African Studies Center-TUFS

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 (研究講義棟4階 401E-2号室)  
3-11-1 Asahicho, Fuchu, Tokyo 183-8534 Japan  
(Room 401E-2, Research and Lecture Bldg.)  
Email: asc@tufts.ac.jp